

PRIMERGY CX400 M1 / CX2550 M2 / CX2570 M2**ご使用上の留意・注意事項**

PRIMERGY CX400 M1 / CX2550 M2 / CX2570 M2 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2021 年 5 月
富士通株式会社

(1) UEFI モードについての留意

UEFI モードの設定方法や OS 及びオプションのサポート状況に関しては、下記リンクをご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

(2) USB 設定について

Red Hat Enterprise Linux をご使用の場合、USB を USB2.0 で使用する必要があります。

BIOS 設定の「Advanced」-「USB Configuration」-「xHCI Mode」を"Disabled"に設定してください。USB3.0 で使用した場合、オペレーティングシステムが停止する場合があります。

(3) Red Hat Enterprise Linux7 の OS ログについて

Red Hat Enterprise Linux 7 をご使用の場合、OS ログに下記のメッセージが記録される場合があります。ログへの記録のみであり、機能には影響ないため、無視してください。

```
pci 0000:*.:.: [Firmware Bug]: reg 0x*: invalid BAR (can't size)
pci 0000:*.:.: BAR *: no space for [mem size 0x*****]
pci 0000:*.:.: BAR *: failed to assign [mem size 0x*****]
(*は任意の文字が表示されます)
```

(4) SR-IOV 機能について

本装置のオンボードネットワークコントローラでは、Single Root I/O Virtualization (PCI デバイス側で仮想化をサポートする規格)が使用できません。

(5) サーバノードのオプション増設作業や保守作業について

サーバノードのオプション増設作業や保守作業において、サーバノードをシャーシより取り外した場合、シャーシに搭載されている一部のサーバノードの冷却が不十分となるため、そのサーバノードにおいて一時的にスロットリング機能が有効となり、性能を低下させて動作します。但し、オプション増設作業や保守作業が終了し、シャーシ内にサーバノードを搭載した状態に戻すことにより、通常の状態に復旧します。サーバノードベイを開いた状態での増設作業や保守作業は 60 分以内に実施してください。

(6) 2.5 インチ PCIe SSD (PY-BS08PA / PYBBS08PA / PY-BS16PA / PYBBS16PA / PY-BS20PA / PYBBS20PA)について

PRIMERGY CX400 M1 アップグレード&メンテナンスマニュアル 7.4 項にてホットプラグは記載制限事項を満たす場合のみ可能とされていましたが、上記製品はホットプラグに初版 BIOS より対応しております。ホットプラグ手順については下記リンクより対象製品の製品情報をご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/archive/peripheral/disk.html>

(7) 2.5 インチ HDD/SSD 取り外し時の留意について

2.5 インチ HDD / SSD を取り外す際に、下図の A の部分のフックがかかっているため抜けづらことがあります。その際、HDD/SSDトレイへ無理に力を加えると、トレイが破損してしまうことがあります。



取り外しにくい場合は、上右図 B の方向に無理に力を加えるのではなく、下記の手順を参考に取り外してください。

2.5 インチ HDD / SSD を取り外す際に、HDD/SSDトレイへ無理に力を加えると、トレイが破損してしまうことがあります。2.5 インチ HDD / SSD が取り外しにくい場合は、下記の手順を参考にしてください。

<p>①タッチポイントを押して、ロックを解除します。 ②手前にリリースレバーを約45°手前に倒します。</p>	<p>③リリースレバーの根元をつまみます。 ④トレイを軽く持ち上げて、サーバから引き抜きます。</p>

※ トレイを持ち上げても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。(HDD/SSD を元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSD を引き抜いてください。)

(8) 冷却ファン/電源ユニット/環境温度の異常通知について

冷却ファン、電源ユニット、環境温度に異常が発生した場合、搭載されているすべてのサーバーノードで異常を通知します。

(9) 省電力動作モードを使用時の注意事項について

省電力動作モードを有効にしてご使用の場合、稀に、CPU IERR, PSOD, Fatal NMI といったシステムダウンが発生することがあります。

(ただし、ハードウェア故障や BIOS 版数が低い場合を除きます)

BIOS 設定の[Advanced]-[CPU Configuration]-[Power Technology]を“Custom” (初期設定値: Energy Efficient)にし、下記のように設定してご使用ください。

- ・Enhanced Speedstep: “Disabled” (初期設定値: Enabled)
- ・Turbomode : “Disabled” (初期設定値: Enabled) *
- ・CPU C1E Support : “Disabled” (初期設定値: Enabled)
- ・CPU C3 Report : “Disabled” (初期設定値: Disabled)
- ・CPU C6 Report : “Disabled” (初期設定値: Enabled)
- ・Package C State limit : “C0” (初期設定値: C6)

※Enhanced Speedstep が“Disabled”のままだとTurbomodeの設定が有効にならず、変更ができないため、以下の手順で変更してください。

- ・いったん、Enhanced Speedstep を“Enabled”に変更する(既に Enabled の場合は不要)
- ・Turbomode を“Disabled”に変更する
- ・Enhanced Speedstep を“Disabled”に変更する

ご使用の OS が Linux の場合は、あわせてカーネルパラメータの追記が必要です。

Red Hat Enterprise Linux 6 の場合:

/boot/grub/grub.conf の kernel 行に

“intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0”を追記してください。

Red Hat Enterprise Linux 7 および SUSE Linux Enterprise Server 12 の場合:

/etc/default/grub の GRUB_CMDLINE_LINUX 行に

“intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0”を追記してください。

追記後 grub2-mkconfig コマンドで反映まで実施してください。

(10) VMware ESXi を使用時の注意事項について

一部ネットワークカード (PY-LA262 / PYBLA262L / PY-LA264 / PYBLA264L)の省電力モード動作時において、Energy Efficient Ethernet 機能を保有した上記型名の LAN カードにてドライバが当該機能を有効としていた場合、稀に CPU IERR, PSOD, Fatal NMI といったシステムダウンが発生する場合があります。LAN ドライバの設定にて、Energy Efficient Ethernet 機能を無効化してください。

- ・ ESXi 5.0 / 5.1 / 5.5 / 6.0U2 以前の場合
 - 1) 以下のコマンドを実行します。

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p "<igb ポートに対する設定値>"
[igb ポートに対する設定値]
0 : EEE 無効
1 : EEE 有効
```

<実行例>

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p "EEE=0,0,0,0"
```

コンマ(,)で区切ったリストは、「PCI バス番号」の小さいポートから順番に、省電力イーサネット機能を無効化するポート毎に指定します。今回の例は、PY-LA264(4ポート)が1枚搭載されており、igb ポートが4つあることを前提にしているため、0(無効)を4つ指定しています。なお、「PCI バス番号」とは、「esxcfg -nics -l」の出力結果が以下の時、PCI 列直下の値(例 : vmnic1 の場合:0000:03:00.00)です。

・ コマンド esxcfg -nics -l 表示例

Name	PCI	Driver	---
vmnic1	0000:03:00.00	igb	---
vmnic2	0000:03:00.01	igb	---
vmnic3	0000:03:00.02	igb	---
vmnic4	0000:03:00.03	igb	---

今回の例では vmnic1 の PCI バス番号が一番若いため、最初の 0 が vmnic1 に対する設定であり、2 番目に若い vmnic2 に対する設定が 2 番目の 0 となります。※ESXi シェルの有効化手順および SSH 接続の許可手順は下記VIEWMウェア社 Knowledge Base を参照してください。

<https://kb.vmware.com/kb/2004746>

2) 上記設定後、システムを再起動してください。

(11)iRMC webUI を利用した設定変更時の注意について

iRMC FW 9.62F をご利用の場合、設定変更時に選択する「Apply」ボタンが反応しない場合があります。その場合、設定変更が反映されるまで「Apply」ボタンの選択を行ってください。なお、利用ブラウザが firefox の場合、上記事象発生しないことを確認済みです。

修正・対策済となった項目

【修正済み】BIOS メニュー画面での長時間(24 時間以上)放置の制限

BIOS メニューの画面で 24 時間以上放置しないでください。

次回起動時に装置が起動できなくなります。装置が起動できなくなった場合はシステムボードの交換が必要になります。

⇒ BIOS 1.8.0 で修正しました。

— 以上 —